

# 村上地域における「ゆきん子舞」の多収穫栽培ごよみ

- 品種の特徴**
- 出穂期及び成熟期は「こしいぶき」に比べ1～2日及び2～3日早い早生のうるち種
  - 耐倒伏性は強
  - 穂発芽性は易
  - 心割れが発生しやすい

- 栽培のポイント**
- (1) 健苗育成 : ①育苗日数は20日程度(加温20日、無加温25日) ②播種は4月10日以降、播種量は乾籾150g/箱 ③葉色はやや薄い ④5月上旬の移植
  - (2) 過剰生育防止 : ①1株苗数3～4本植えとし、茎質向上 ②栽植密度は茎数早期確保のため60～70株/坪 ③基肥窒素量は、分施で7kg/10a、全量基肥で13kg/10aをめやすとし、高地力ほ場は減肥 ④中干し・溝切りを徹底し、根の健全化と茎質向上
  - (3) 登熟向上 : ①1回目の穂肥時期が幼穂形成期であるため、幼穂確認と遅れない穂肥 ②出穂前後25日間は飽水管理とし、田面を乾かさず地力窒素の発現を促進 ③落水は出穂25日以降とし、登熟向上
  - (4) 病虫害防除 : ①いもち病の箱処理剤使用 ②いもち病とカメムシ類の同時防除 ③紋枯病の発生量に応じた適期防除
  - (5) 胴割れ発生防止 : ①刈り遅れしない適期収穫 ②刈取水分に応じて乾燥温度を調節
  - (6) 土づくり : ①稲わらの秋すき込み ②土づくり肥料や堆肥等有機物の施用

目標の収量構成と品質	
目標収量	660kg/10a
穂数	450本/m <sup>2</sup>
1穂籾数	74粒
m <sup>2</sup> 当り籾数	33,500粒
登熟歩合	88%
千粒重	22.5g
検査等級	全量1等
玄米タンパク質	6.5%

基本は「適正生育量の確保」と「登熟の良い稲づくり」

